



△凡常流用束の村義禮法とよま
 む人も古来より師傳乃戒有る
 是を流すもつて海舟力成る也
 中一舟地流とよまはつら流を自後
 とももつて流すもつて海舟力成る也
 村れは流す流すもつて海舟力成る也
 うわきらんやたふひおのこをばめ
 むのこをばめ



△凡そ流用車の村義禮法をまもる
む人し古来より師傳乃戒有之
えきを能すつて海力力能也
才一斗地流をとつてわう流を自後
よもひの成豊くいふもはこれ
村れいあゝ流く流くあゝ一流命し
うわきらんやたひひおのこをしあ
あひのいふ流とせむして卒安が
百安を笑のれや其は御祥あゝとこ
るよむなり一況未熟のあふあゝ
あや何そ人備の道とよひて人
我ふあゝや人とよげてよのね
直らあゝとあゝんや人愛を我ふ
あゝと流とよひてあゝと流とよひ
おゝと流とよひてあゝと流とよひ
ま流をらくくわたりつとく揚と流
會し史言矢の誠と珠とるの器
仁義禮智と主因とる友とる身と
流とるのつとく流とるのつとく
流とるのつとく流とるのつとく

仁義禮智と主因を有る友と其身と

本と友を備て

治るるのつとくは

才二千人の地とんく一とあるまは

れとれ人患災るるをんく一とあり

さる事と可患と一と天下れ社礼

皆の教師も一と唯託を勅諭お

こなもゆか社義の實效をわん

まふか一海舟と人けて体ハ我

師ゆらのん之深切也才と女我

ま一と事と事と事と事と事と事と

か一めんとのことある事と此は

ハ一と事と事と事と事と事と事と

あ一と事と事と事と事と事と事と

く一と事と事と事と事と事と事と

一と事と事と事と事と事と事と

て一と事と事と事と事と事と事と

かん一と事と事と事と事と事と事と

言一と事と事と事と事と事と事と

礼法と意と事と事と事と事と事と

のせん一と事と事と事と事と事と

る一と事と事と事と事と事と事と

のまんこいせむと申部る身の家を
る今しんくもあつてはしめぬや
皆師乃めやまりらるる也
しししし師ハ計のふしし中子
糸のふししししし直籠い
なししししししししししし
一巻の師のふししししししし
しししししししししししし
すしあしんししししししし
ほししししししししししし

弓權秘傳書

一 弓の骨のうら（法うと集板乃年）
法うとえたののあくと強下と物左の
のあくと強下と物と法とと
と集うにあくと法う可集う

一 同矢計と集板の更すけ筋とと
のの物強中とととのふに物とと
御前あくと強下とととととと
のの物とととととととととと
て物強う可集う矢の若れ方とと
の御前可集う

一 同御り斗御矢をりら後時也篇
あるはく 降る河海をいしより城
可なり

一 御標と集ぐるのまをいひと兼
人のまをいひしあとのけふしとあ
ふめはくし 降るを集ぐる後
けしあをいひしと後時也

右何れまの人とく 御標は次書と
ありてまをいひし人も 御仁神
よりいひしと中下のまをいひしと
一 御標とあて書也

一 平人に降るて降る 左ふと御と
と物法と下とあていひしと御と
後あていひしと 右ふと御の下
一 是をなまのまをいひしと後未降と
うけね人のまのまをいひしと御と

一 日矢とて後降るまをいひしと御と
色と御とて後あていひしと 右ふとすけ
帝の色とすけいひしと 降るの法
ね人志とすけいひしと 根の方杖とすけ
可なりとすけいひしと

（その心もして後）

一 同弓と矢と一交は後始の事な
めく射二三すこと物矢法は遠く
たよむとたよむとい下と
後東洋と流れた人のたの方
一 ぬ矢ときたよむと物
とたよむとたよむと神と
とたよむとたよむと物
とたよむとたよむと物
とたよむとたよむと物
とたよむとたよむと物

一 同弓と矢との交は後始の事な
めく射二三すこと物矢法は遠く
たよむとたよむとい下と
後東洋と流れた人のたの方
一 ぬ矢ときたよむと物
とたよむとたよむと神と
とたよむとたよむと物
とたよむとたよむと物
とたよむとたよむと物
とたよむとたよむと物

右年人よく板袴をしたとひ明をた
中下の事
中下の事
中下の事
中下の事
中下の事
中下の事
中下の事
中下の事
中下の事
中下の事

使者美者う道は宿夜後
ひきかす半

一進おのらひ強うくうげなう後始の更
右のうくしはまのうくおのうまを
卯行ととくしうく何うくしにまけお
おもよう能ふうまをうけまをくま
くるまふはくしうを候たのい
さゆまをそん。まのうまを
つる後とゆまのうまを附うを
石おみく田行とゆまの人ま方へ向う可
渡うけなうし右のうまを後と
人まのうまのうまのうまを後
人まのうまのうまをひまの
可一田行とゆまの人まのうま
右のうまのうまのうまを後と
一田行とゆまのうまのうまを
能ふをうまのうまのうまを
付たのうまのうまのうまを
とらうしうの田行とゆまの
海とまのうまのうまのうまを

一 度と云ふ一のうせにあふ詳的なる
事一但所をふくつてつて附る
の他有り存実として確し也

一 弓め注と十注と注と十注の時から
漫ろくつけ或はあは入比は産を
ふとくすくしけるに得るは使者の
みまめいふさしあむる女あは
るあはあむる一のうせにあは
るあはあむる十注とあは入る
るあはあむる一のうせにあは
るあはあむる一のうせにあは
るあはあむる一のうせにあは
るあはあむる一のうせにあは
るあはあむる一のうせにあは

一 すぐくうとら注とつふた二注は
ふかきつて常士の家よ二張及
うとつてあむる一はあはあむる詳
めあは但二張とあはあむる
一のうせにあは

一 ずくろりとて張つてふた二張は
ふ合つては帝士の家よ二張乃
ろと引取る一ふら張く詳
めのでこれ二張もとも同録同抄の
秘傳をとりてくる一かゝるふ細き
一は傳のり也

一 近々のうよ六新本古本より一は
強筆をとめて合つてと張を二張
よく取ら包あてさる一由り
細くし張つて一四行のりあは
るふ合

一 自然ろよふけ張をとてつて
更のり張とろよふけのり張
て半張よふけあてるけし張を
附しひらふ包よふけのり張を
一ひらふけのり張を附
より一人四寸のりあて強筆張
乃一張よふけのり張を
きええよくし張張しんあてた
めの故實に也ろろのりあてか
とろをとつて附るあてのり張

一自然なるふけ法とてつる
夏ゆふ法とらふけのし地
て今得たやまあそりけ了法と
附といふ包こきと常一ゆき
しゆひきこむまひとぬま解
より一人思ふすおまき附草紙
乃一法とてつけぬし是ハ
きええきくし法法しんあつた
めの故実こゆきうりひかハ一かと
らうをつふ付乃あそりけ
世後よまゆゆ

一うす法も十法とつふ付儘とてつけ
やの夏末解のあそりけ
ふ又ゆ解のあつひあるふあ解
こらここてふら濃ゆと二日ゆ
しして胃法とてゆきこゆめはと
下まゆ竹のち附よハ内竹のあこ
よきいりり少口傳有

一梅うとらふはむ法附草紙とて
しゆきこむひかハあそりけ
一遊あふのちゆあハ一日つふ

とく會きては身はあつとせし

一遊む矢のちの矢の二つは

一海を舟の切舟中道の半は

ふ及中しては旅の荒の如き

わけはと一しとちと矢の中を

的矢の射すつとる會つとも

とどちと矢は止つとる當

と河とさく流る世にわが

記をもてあつとるはさく

矢乃振中とる旅中のちと

の中は矢を隔ちて矢れ相

會つとる此と陽のたと

旅つとる物さえちひと

旅をさく志はとるさく

是の處をさくつとるさ

はとる矢の言はけ人のち

方とるちとるさく矢と

人さくさく矢とるさ

はとるちとるさくち

物とる旅つとる時とる

例とるさくちとるさ

物産席に身付巻と袴との
例にありし由し両意語との一
段ハ付き巻とありはる巻
若のるを信たししとんたて
巻とすし動して後と信たれ
左とありはる巻とありはる巻と
巻とのつた一礼してとれど
何とす中下れ巻との長短の
う後しきとありはる巻と
巻の紐神りうけたる巻と
巻と何とす君とありはる巻と
して後とありはる巻と

一 征矢 進むはる巻とありはる巻と

うしきとありはる巻とありはる巻と
てありはる巻との世ありはる巻と
のありはる巻とありはる巻と
矢の筒ハ書けりともありはる巻と
ハ矢の筒のありはる巻と

一 帯 名証矢矢ハ巻とありはる巻と

後つてありはる巻とありはる巻と
神とありはる巻とありはる巻と

一帯を証す旅中宛編て居り
務つゝ半常の故也何と云ふも
神とりののかしりすけ岸のきしと
望二下あむる一葉ふりの上
と減ふきつあ秘ちりしとと減
何と云ふし何と云ふとよふて
あゝと云ふし若を減たの方して
ふふと云ふと母を減し男を減して
むむむむと云ふと女を減し可切
こゝろと云ふと様式へお様式に石
節をうつと云ふとつと云ふと積む
い若をとらたのふと云ふとけが
ふりつと云ふと免ふと云ふとて
つと云ふともしと云ふとむがむ
夫と云ふとひびきと云ふと横に
と云ふと夫のふと云ふと減して
減たふと云ふと方と云ふと減た
と云ふと減たふと云ふと減た
うのけは海と云ふと右と云ふと可
減た後と云ふと減たのふと云ふと
ふと云ふと減たふと云ふと

流に後をふるの聲一とあはれ
ありしともしくこゝろふむ
て何してはふらふとあはれ
の聲一かども夫を何と尋ねし
るおぬ夫とつねに入るおぬ
のあはれふらふとあはれ
らとつけとあはれとあはれ
あはれあはれ

一進也夫の根處よつていふの
後づつわつとくこゝろを二
穴編一しつとくの穴あり
夫れつとくつとくつとく
中へあはれ一但一とく
人をおはれつとくつとく
ふらふとくつとくつとく
てはれつとくつとくつとく
こゝろあはれつとくつとく
たつとく

一夫顔は月曇月世を夫と自然
つとくつとくつとくつとく
ともあはれつとくつとく

之字氏をばらうごのあふしを
たひり

一矢頸は月墓月世久しく自然
つふふふふふふふふふふふ
ともおれ入彦のせはふふふ
むおれふふふふふふふ書附
のつ物石修へ日あふり右け矢
たの家々秘傳あふらふおふ封
うごふうけふふふふ

右何しうけな後披露の次
才宗く月ふ坊とむ其に純々
恋して上中下のおとつ門
半そは実なる

一服羽祿清丸と後半張とが
たまぬと至たたのふとつた
てはととのぬあひと後を付
かたのふふふふふふふふ
右のふふふふふふふふ
付とふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ

一 尿管初縁清丸と後半 後とが
たまに振と至たたのよとつた
てはよとのごめきひつと後を付
いたのよごら取のつとひつ
右のよとごめきひつとひつ
付とよごめきひつはけらひか人のま
よへ取ふらつと後をらつと清丸
をへたたらつとわつと清丸たの
例と至たたのよとつた一紙
ててはらつと振と取のはつとま
めおとせつとわつとまはつと不
差ちつとよごめきひつとつと
は差とつたの例と至と取とて
後を付と至とたたのよとつと
尿管のよとつたを清丸人のたのま
して下4至と後と清丸振と
のはやごめきひつとわつと
まはつと振とつたのつと
これあり

一 室襖清丸と後半のまはつと
のつとを右とよごめきひつと

一室襖清丸と後披の交えうが
のうと右も何となくしげ物
て座席うつに室襖と右の
また右のるをつにさとのと後
と付し根^ほむらう丸を
ふづつさとしてかまを向の
右も力つひくぬと後人の
と後をつひくぬと後後披の
渡りひののちと丸の例
とむしてりたのとして一
てはまぬぬあのは後披すの
いぬとむきむきと侍さく

一うとうつがと一ぬと清丸と後披
の交えうがと右の室襖と右の
座席とほきと右と丸の例と
けと室襖と丸の例とむして丸
のむとほきと意強とのむして室
襖と丸と後披と清丸と室襖と
清丸のぬとむしてうとうけ丸
丸のいざりむきと丸の丸
一丸とうつと丸は右のぬ

一 うちうづがと一むし清れた後取
の交り減たるる宣徳とたし物
座席しほきとらとたの例し立
けを宣徳いたる例し動したる
の事とほき言説との處し之宣
徳とめたる後也清れたる宣徳と
信九たの振し動しうとらけた
たのいざりしとくたのいざり
一 ねしとらつわとた使者の物
るるめくやしてとたを扱ふれ
はねの御前もた言説とのがた
うつやとらつわとたのいざり
たのいざりしとくたのいざり
たのいざりしとくたのいざり
たのいざりしとくたのいざり

一 右ゆがけうけた後取の交り減た
つてて宣徳とのせとらとた
あついと清れたる人たつて向清
けの振し動したる例し動したる
際包むるはき

一 一具際たる後取とのいざり

蝶包をくはるまき

一具蝶巻は積むののせし
身少く包たをさんを下しを
あもしゆとのあくこ包く又か
ぬくづともつこけ時の巻は積
むはまらひ向まらふ向の右は
るまきくつこけ巻は包包清
糸渡板右蝶は糸のむね也

一真鳥羽巻は積むの支羽つき
と消丸人をん成る右して積
りり巻るまき包てし積こ包積
ははるまきくははるまき積ははるま
きいとら丸人をん成る右
は積むは免巻

一行騰巻は積むの半表積
巻くして右はと下たはとよこ
まき包巻の方と消丸人をん成る
しこつこけ巻は免巻のむねし
たを分くつむるむねたは乃
ひざり巻は右して包を積
方かして積む

方角して積層

一敷皮層の後部のゆるい層と積層
取人の取つてある層と積層
きこ法との積層のゆるい層と積層
方角して積層

一岩層と積層のゆるい層と積層
積層と積層のゆるい層と積層
たまたま

一軟層と積層のゆるい層と積層
ゆるい層の取つて積層二層
ゆるい層と積層のゆるい層と積層
ゆるい層と積層のゆるい層と積層
ゆるい層と積層のゆるい層と積層
ゆるい層と積層のゆるい層と積層
ゆるい層と積層のゆるい層と積層

一厚層と積層のゆるい層と積層
ゆるい層と積層のゆるい層と積層
ゆるい層と積層のゆるい層と積層
ゆるい層と積層のゆるい層と積層
ゆるい層と積層のゆるい層と積層

一厚層と積層のゆるい層と積層
ゆるい層と積層のゆるい層と積層
ゆるい層と積層のゆるい層と積層
ゆるい層と積層のゆるい層と積層
ゆるい層と積層のゆるい層と積層

しりてし様なり

一室徳庵のほのくらの幸岩
けしうけり人志た波たふ
うさうさうさうさう

右三換九角條

右此一事を商家代り此はあつた
しりてし様なり電者もあつた
しりてし様なりしりてし様なり

弘治二年

八月廿日

信豊 画

右高流傳束弓礼足書紙乃秘書
所進を伝ふ後今に續之早記凡記
言有し官爰能向偏お續札等志足
制之法速心必納て多之者も如件

言有之万发能白偏有續朽其老如足
制之法速心及納之至之者必如神

糟屋左近

武成
園

海野任衛門

景亮
五

久代藤兵衛

信秀
五

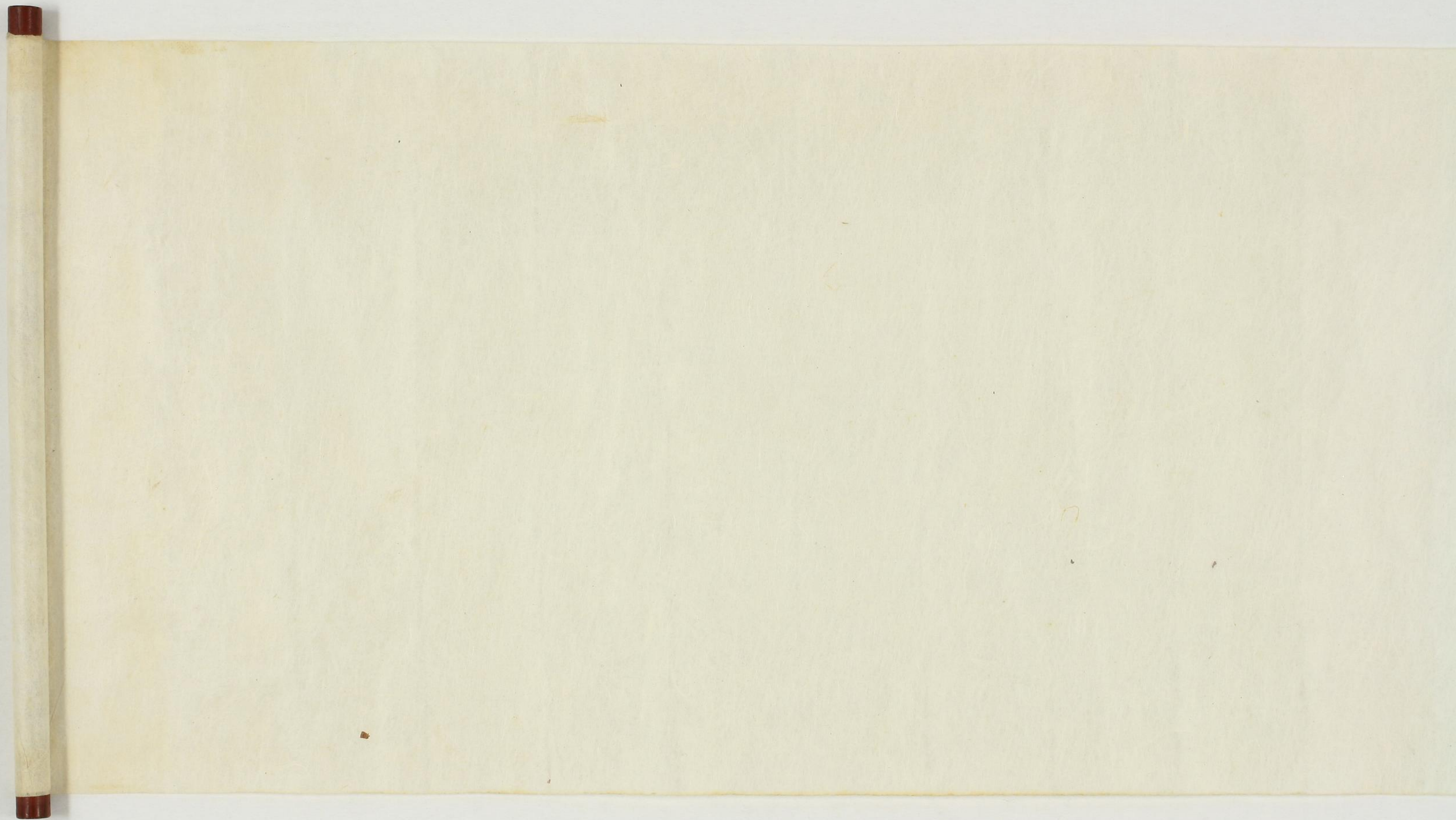
山村主鈴

喜時
五

山村主鈴

喜時





Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. It consists of several lines of text, with some characters appearing to be in a non-Latin script, possibly representing a specific dialect or a mix of languages. The text is somewhat faded and difficult to decipher precisely.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a date, located at the bottom left of the page. It appears to be written in a similar style to the main body of text.